同窓会会報

昭和40年 9月15日
茨城県 東茨城郡
内原町鯉淵
発行所
鯉淵学園同窓会
印刷所
山田軽印刷所
TEL(2)3480・8096

鯉淵学園創立二十周年記念式典並びに同窓会第七回大会の日程決まる

残暑も去り、虫の音もいよいよしげく、待ちに待った創立二十周年記念行事や第七回同窓会大会も目前にせまりました。春以来、再三記念事業委員会や委員会事務局、同窓会常任委員会の会合により、日程は大綱次のように決定しました。

記念式典

日時 昭和四十年十月十六日（土曜日）午前十一時から午後二時三十分まで

場所 鯉淵学園講堂

式次第

1. 開会の辞
2. 委員会々長挨拶
3. 鯉淵学園二十年の経過報告
4. 感謝並びに表彰
5. 農林大臣祝辞
6. 来賓祝辞
7. 閉会の辞（十二時半の予定）

記念写真撮影（十二時三十分より午後一時まで）

祝賀パーテー（午後一時より二時三十分まで、晴天の場合は運動場、雨天の場合は講堂、教室などを会場とする予定）

第七回同窓会大会々議

日時 昭和四十年十月十六日（土曜日）午後三時（前記の式典が終了次第）から午後六時まで

場所 鯉淵学園講堂

会議次第

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 来賓祝辞
4. 議長選任
5. 報告事項（四十年度事業・決算・監事報告）
6. 審議事項（前記報告承認の件、二十周年記年事業の推進に関する件、同窓会代表を農民教育協会理事として推せんする件、その他重要な事項）
7. 閉会の辞

第一期・二期・三期生合同同期生会

日時 十月十六日（土曜日）午後六時三十分から午後九時まで

場所 鯉淵学園来賓宿舎

支部長・代議員の連絡協議会

日時 十月十七日午前九時より午前十一時まで

場所 鯉淵学園教務課会議室

常任委員会

日時 十月十七日午後一時三十分より午後三時まで

場所 鯉淵学園教務課会議室

四十年度体育祭

日時 十月十七日午前八時より午後四時三十分まで

場所 鯉淵学園運動場（同窓生の皆さんも奮ってご参加下さい）

以上のように、十月十六日・十七日の四日に諸行事が集中しておりますので、万障お繰合せ下さってご参加下さるようにお願い致します。

記念式典・同窓会大会出席予定の方々にお願い

当日は同窓生の外に、来賓、父兄など多数ご来学の予定ですので、例年の大会よりもすこぶる混雑することが予想されます。

特に、宿泊、食事などは学園内部で全部準備することが困難でありますので、かなりの部分を外部に依頼することになると思われます。従って次の事項について是非ご協力たまわりたくお願い致します。

1 出席予定の方は、十月十日までに、必ず連絡下さい。その際、事務局で準備すべき食事（何日の朝、昼、夕から何日の朝、昼、夕の何食分）、宿泊（何日と何日と具体的に）を明記して下さい。

2 出席者は必ず受付を経て手続きをして下さい。受付は学園教務課（勤務時間外は事務課）に設置する予定です。日時は十月十五日（金曜日）午前九時から十月十七日（日曜日）午後五時までとします。

3 経費は、祝賀パーテーが実費負担参加（大よそ五〇〇円位）、十月十六日の宿泊、十六日夜・十七日朝・昼の食事のかなりの部分を外部にお願いすることになりますので、学園内で食事宿泊される方も全部五〇〇円ご負担いたゞき、合計**お一人壱千円を大会費として、**

受付の時納入お願い致します。なおこの中には、通常会費、名簿代、基金、記念史代、一～三期会費等は含まれておりません。さらに、前記以外の食事代は学生食堂において各自支払下さい。食事の予定は前述のように、前もって必ず事務局にお知らせ下さい。前もって事務局から学生自治会に一括食事予定数を申込んでおきませんと、その時になって多人数の処理は困難ですので重ねてお願いします。

以上のような方策を講じてもなおいろいろの不便、不手際をまぬかれぬかと案じられます。諸経費の過不足は、事務局で調整したいと思いますが、貧弱な事務局会計をお察し下さって、会費など未納の方はその際つとめてお願い致したく存じます。

鯉淵学園創立二十周年記念事業委員会発足

表記委員会は、学園の創立二十周年を記念し、教育施設の整備をはかり農業教育の振興に寄与することを目的とし、次の方々が委員になっております。

会　長　東畑　精一（農民教育協会々長）
副会長　山添　利作（同　理事長）
同　萩原　耕（鯉淵学園同窓会長）
理　事　東畑　四郎（農民教育協会常務理事）
同　大槻　正男（同　）
同　鞍田　純（同　鯉淵学園長）
同　池田　斉（同　協会事務局長）
同　坂田　英一（農民教育協会理事）
同　和田　博雄（同　）
同　笹山茂太郎（同　）
同　黒田　寿男（同　）
同　小倉　武一（同　）
同　勝賀瀬　質（同　）
同　一楽　照雄（同　）
同　宮田　武一（同　）
同　安井　三郎（同　）
同　久門　博夫（同　）
同　土岐　定一（同　）
同　奥原　潔（同　）
同　山中　義教（同　）
同　柳田　久（同　）
同　和田　文雄（鯉淵学園同窓会副会長）
同　盛永俊太郎（農民教育協会理事）
同　窪田　角一（同　）

記念事業として、1記念式典（十月十六日・鯉淵学園において挙行）、2記念史の編さん、3記念会館建設基金の造成をあげ、全国段階農業関係団体、都道府県農協連、同特殊農協連、同農業会議、市町村農協等に、次のような趣意書を送って協力依頼しております。どうか同窓生の皆さんからも関係団体・農協等に、側面から協力依頼をして下さるようお願い致します。

鯉淵学園創立二十周年記念事業趣意書

財団法人農民教育協会が経営しています鯉淵学園は、昭和二十年十一月戦後の農村社会における有為な人材を養成しようとして、全国農業会高等農事講習所の名のもとに創設されたものであります。昭和二十三年六月全国農業会の解散に伴って、その経営主体として財団法人農民教育協会を設立し、名も鯉淵学園と改めて、あらたな構想のもとに経営して参りました。これはひとえに関係各位のご協力の賜と厚く感謝いたしています。

爾来二十年、私たちは常に新時代に即応できる農村青年を育成しようと微力を尽して今日にいたりました。

幸いにして、私たちの試みは、戦後の農業教育に新しい途を拓くものとして、各方面から強い関心を寄せていただいています。すでに卒業生は通信教育の修了生を含めて約二千四百名に及び、全国各地の農村で新しい型の農業者として、あるいは人間性と、実践力豊かな指導者として、農業協同組合や、農業（生活）改良普及員などの各分野で活躍しています。

ご承知のように近年農業及び農村の変貌は著しく、この変貌に対処できる広い視野と高度の知識と技術を

身につけた優れた青年の育成が要望されています。本学園は創立二十周年を迎えるにあたって，この変貌急な農村の実情に即応して、学園の教育を積極的に推進し、ひいては、農村社会発展のために、いさゝかでも寄与いたしたく、今回記念事業を計画し、施設の整備充実をはかることにいたしました。

つきましては、従来のご協力の上に更にお願いを申し上げることは心苦しい次第でありますが、何卒私たちの微意をおくみとり下さいまして、金額のご協力を賜わりますようお願い申し上げます。

昭和四十年八月　日

鯉淵学園創立二十周年記念事業委員会

記念事業委員会の下に事務局をおき、農民教育協会事務局総務部長、飯尾利一氏を事務局長とし、次のように事務分担をしております。募金事務（宮島三男、西村典夫、砂田義雄、河合甫雄、※飯尾利一、※坂本保一）、式典事務（河合甫雄、※飯尾利一）、庶務（河合甫雄、※飯尾利一、※坂本保一）、会計（※奥村祐三、河合甫雄）※印は協会事務局職員。又二十周年史は編集委員会を次の方々で構成し、悲壮な頑張りを続けています。委員長・石橋幸雄、委員・近藤次、西村典夫、藥島宏、高橋隆三。

二十周年記念史の出版について

本史の出版は十月十六日の記念式典を目標に、編集委員や執筆者の並々ならぬ努力にもかゝわらず、資料の募集整理、日常業務の負担などの実情からみて、当初に予定した期日までに完成することは極めて困難であります。この際、記念式典の期日にこだわることなく、できるだけ資料に基いた学園の正しい歴史をつくるという態度を堅持し、原稿の〆切を十二月末に延期し、出版を翌十一年三月に延期することになりました。すでにご多用のところ原稿をお寄せ下さった方々、又記念史の予約を下さった多数の方々に申訳なく存じおりますが、事情お察し下さってご了承下さるようお願い致します。なお式典には学園の現況と学園の略史をまとめた小冊子を作成配布することにし準備をすゝめております。

支部だより

岩手県支部会

宮島三男

去る八月二十日、盛岡市外繋温泉で東日本農家生活改善研究会が開かれたのに出席するため出掛けたのを機会に、八月十八日夜、「椀子そば」で有名な盛岡市で、同窓会岩手支部の面々と歓談することができました。

集った方には、四期の鷹觜武氏、五期の那須野章氏、小川（旧姓金子）昭伍氏、ずっと飛んで、十三期の越場徳夫、大坪京三、熊谷（旧姓小呼寺）達男の三君、十四期生加藤謙次、芳賀正美、高橋（旧姓藤沢）貞雄の三君、十七期生斉藤裕夫君は名刺による書面出席、十八期の千葉直志君、十九期の菊地博美君、二十期（今春卒業）の熊谷豊彦君、二年生の安孝功君等々でした。

実は、研究会に出席する主人公は家内で、小生は、ボディガード兼農村・農協の実情を殆んど知らぬ家内を引廻す役目だったのです。しかも盛岡には学生時代の友人が二人おり、盛岡に着いてから電話したら二人ともあまたまいて、小生に話しがあるとのこと故、旧交を暖める気持もあって、同窓会に妻家内を先発させ、小生は、友人と暫時話した後会場に行ったのでした。

会場では流石に、ビールが林立し、歓談、興笑の渦巻中でしたが、やはり自己紹介から始まり、新しい卒業生は古い卒業生を知り、古い人は新しい人を知って、お互いに、鯉淵学園二十年の歩みを実感しました。

特に、二十年間の学園の変貌と現状を説明する過程で、古い卒業生は、往時を偲び、今日を瞼に描いてその激変ぶりに嘆声を発するし、新しい卒業生は、学園の現状を知って現状の理解を深めたのは、興味深いことでした。誰れか身近かなこととして聞く人がなければなかなか語れない昔の話を、新しい卒業生が黙って聞いて現状への変化を知ったのは、やはり、同窓会という長い期間を簡化する人々の集りだったからでしょう。則せずして数人の方々が十月十七日、学園創立二十周年記念式には必らず行きますよといわれましたが、こうして全国各地から同窓生が集まられるとなると、さぞかし、賑かな楽しい同窓会大会になるだろうと思いました。お世話になった皆様へのお返しをするのはその時であろうと、御宅でもあれこれ話し合っています。岩手の方に限らずどうぞその節は御満喫なくお出掛け下さい。

同窓会の席上では会えず、二十日の夜盛岡駅で会ったのが五期の杉本文一氏と二十期の加藤豪雄君でした。杉本君は、十五年ぶりと始んど変らない様子なので「文ちゃん」と学生時代の名称が口に出た程でしたが、同期の那須野君が見えんと、可愛い

い坊ちゃんをつれて来ていたのをみて、文ちゃんも亦斯くあるべしと思い、口を慎しむことにしました。

そういえば、越場君は、純粋の職業的農協経営者の地位にあり、将来の子供部屋、暫定的には貸間をする為に、大きな二階屋を建てたといい、ウルシザワ君は、この名前が呼びにくいのでいいやすい高橋に改姓したといって妻子に行ったことを知らせました。一人の卒業生が、夫（妻）になり、父（母）になって行く過程も、子なしの小生には、年月の経過として感得させられました。

四期の鷹鶏氏が中央会紫波支所長であるのに対して、その管轄下の徳田農協には十四期の芳賀君、志和農協には、同期の高橋君二十期の熊谷君がいます。十九期の菊地君が、明日から東日本農協野球大会に行くといえばひょっとすると青森から十七期の安多平君が出て来ているかも知れないよといいます。越場君は盛岡市本宮農協の参事、新参の加藤君は盛岡市農協の新入職員、いずれに聞いても盛岡市を一円とする農協合併の話が出ているというのに、当人同志は今までお互いに知らなかったそうです。知ってか、知らないでか、二十年の経過は、同窓生の縦横の再会や邂逅を盛んにしているようです。

岩手のみなさん、本当にお世話になりました。若い卒業生が数多く単協で頑張っているのを知って、非常に嬉しく力強く思ったと同時に、同窓生諸君の今後の御健康と御活躍を祈ってやみません。

（九・六　鯉淵学園教授）

石川県支部会

十一期　駒崎　実

過日八月二十一日に同窓会石川支部会を県職員会館にて開催したところ会合初の巾広い出席者（一期松本吉平・三期野崎孜・四期森健二・十期山本久雄・十一期駒崎実・十三期西向詞郎・十四期斉田毅・十六期庭田進・十七期北野守人・十八期作間七郎・十九期本島征彦・二十期北口彬・二十期北野伸也）を迎え午後五時開会し、先ず支部組織活動強化として役員の選出に当り左記の通り決定したのでお報らせしますから今後の支部連絡は事務局にお願いします。

支部会長　松本吉平
事務局長　森　健二
事務局　山本久雄
〃　駒崎　実

それから支部活動のありかた、中央同窓会活動に対する協力等を協議したのち会食に移り先輩諸氏の高農時代の想出話し、後輩諸君の最近の学園の状況などその他会話は豊富で閉館の午後九時散会した。

おくれば世代、三十七年作成名簿を原本にして編纂した支部名簿を一部同封しますが、七期の田中（井端）秀一氏の所在が不明なので学園在籍中の資料より本籍等の手がかりをお知らせ下されば当方で再度調査し明確にしたいと思いますからよろしく願います。尚一期の西能忠次氏は新潟に転出されていますので申しそえます。同窓会費を、別紙内訳書の通り収金したので送金しますから御査収下さい。（八・二十五　県農共連金沢出張所勤務）

熊本県人会あれこれ

二期　奥村心度

拝啓　残暑は尚厳しいようですが朝夕はめっきり冷込み秋の気配も日一日と忍びよる今日此頃です。

熊本では火の山〃阿蘇〃と共に有名なかの〃不知火〃（竜灯）が有明海に明滅しています。

事務局御一同には御壮健にて会館建設等の為御尽力の事と推察致します。

当熊本県人会では去る八月二十三日石橋教授を迎えて県の〃むつみ寮〃で、石田、宮脇(1)、山本、吉本、奥村(2)、鹿江(3)、早上、斉藤(4)の諸兄が集い夕食を共にしながら学園の現況について御話しを頂き且又懐旧談に花が咲きましたが現在県人会長の早上君から同窓会の事務局へ近況を報知させられる破目になりましたので筆不精の身を以って困苦勉励一報する次第です。

常陸野を去って二十年近くなると昔ての自称美男子も頭にチラホラ霜をおくようになったもの、腹ばかりの三等重役、散髪料の節約でもあるまいに、だんだん禿上ってくる頭を気にする奴、様々な寄合になった。

県人会が発足したのは昭和二十四年頃鹿江君(3)が同窓生に呼びかけて県庁連の寮でスキヤキ会をやったのが始まりであり〃不知火会〃と命名した。

当時はチョンガばかりで〃妻を娶らば才長けて〃と理想は高かったが所詮日本経済の渦中外に抜けでられず物価（ヤミ）と俸給（公定）の落差の厳しい現実（一ケ月の俸給で米三升・一年俸給で自転車一台しか購入出来なかった）の下では遂に身売（妻子）したものが四人も出る仕末とは相なった。

現在では〃みめ美わしからざる糟糠の妻〃と〃親に似て余り変りばえのしない豚児〃を抱えて燕の餌あさりよろしく糊口を満すため腰縛さげて宮仕えもそろそろ恩給受給資格者になりつつある。県人会も三十有余名を擁する迄になり、爾来、阿蘇、熊本でたびたび開催し親睦を図っている。